

授業科目名	道徳教育指導法 (Methodology of Moral Education)		
科目番号	95100(産業技術学部) 85100(保健科学部)	授業形態	講義
単位数	2単位	履修年次	3年次
教員の免許状取得のための必修・選択	必修(中免のみ)・選択(高免のみ)	受講対象	産業技術学部 保健科学部
担当教員(研究室)	相賀 由美子 (非常勤講師)		
実務経験のある教員による授業科目	日独の中高において道徳教育の指導経験がある教員が、その経験を活かして指導することで、学生は多角的な観点から具体的な道徳教育について学ぶことができる。		
免許法施行規則に定める科目区分等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ※高等学校免許では大学が独自に設定する科目		
	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の意義や原理などを説明できる。歴史や現代社会における道徳教育の課題、子どもの道徳性の発達、学習指導案に示された目標、内容を理解している。</li> <li>・学校教育全体を通じた道徳教育の必要性を理解した上で、道徳科の多様な指導方法の特徴、教材の特徴を踏まえて授業設計に活用できる。さらに、道徳科の評価を踏まえた学習指導案が作成でき、模擬授業を通して自己の授業改善の視点を身に着けることができる。</li> </ul>		
授業概要	<p>道徳の教科化により、教員には道徳教育を担える高い指導力が求められている。それを踏まえて本講義では、最初に教育実践の基盤となる道徳理論を十分に理解させ、その本質を考察できる力を養成する。そのうえで、道徳教育および道徳科の実践的な指導力を形成する。</p> <p>道徳の理論に関しては、道徳の意義や原理などにに基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解させることが主な内容である。また、道徳の指導法に関しては、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解し、実践できる力を養うことが主な内容である。</p>		
時間外学修の内容と時間の目安	<p>準備学修:授業前に、2時間程度の時間を要して、配布資料の下調べをする。</p> <p>事後学修:授業後に、2時間程度の時間を要して、レポートを作成する。</p>		
授業計画	<p>第1回:現代社会における道徳教育の課題を知る</p> <p>第2回:東洋倫理と西洋倫理の相違性について学ぶ</p> <p>第3回:道徳教育の本質について考える</p> <p>第4回:道徳教育の歴史:明治期から戦中までの道徳教育が現代に及ぼした影響を考える</p> <p>第5回:道徳教育の歴史:戦後から現在までの道徳教育を学びその課題を考える</p> <p>第6回:全体主義道徳教育の実践および道徳性の発達の理論</p> <p>第7回:学習指導要領に示された道徳科の目標、内容をドイツの倫理と比較しつつ考察</p> <p>第8回:学習指導要領に示された道徳科の教育方法をドイツの教育方法論と比較しつつ考察</p> <p>第9回:日独の教材を比較しつつ多様な指導方法と教材の活用方法を考える</p> <p>第10回:道徳科の多様な指導方法および教材の活用方法の理解</p> <p>第11回:評価基準と評価方法について学ぶ</p> <p>第12回:学習計画の立案と学習指導案の作成方法について学ぶ</p> <p>第13回:模擬授業と省察:個人的観点・思想的観点からのアプローチの授業構想</p> <p>第14回:模擬授業と省察:社会的観点からのアプローチの授業構想</p> <p>第15回:総括:日本の道徳教育の展望</p>		
テキスト	<p>中学校学習指導要領</p> <p>中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編</p>		

参考書・参考資料等	『道徳教育を学ぶ人のために』小寺正一/藤永芳純、『道徳教育の変成と課題』吉田武男 他 『道徳教育の理論と指導法』田生マリア、『道徳科授業のアクティブラーニング』石丸憲一等
成績評価方法	道徳教育の理論に関するレポート(50%)、作成した学習指導案とそれに関するレポート(50%)の総合評価。
成績評価基準	A+: 到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている A: 到達目標を達成し、優秀な成績を修めている B: 到達目標を達成し、良好な成績を修めている C: 到達目標を最低限達成している。 D: 到達目標に達していない